

洞爺湖地域 体験学習 プログラムの 提案



平成20年度洞爺湖地域における環境体験学習プログラム検討事業

■はじめに

平成20年7月、支笏洞爺国立公園洞爺湖を望む会場において、世界の首脳が集い地球規模の環境問題を議論するG8北海道洞爺湖サミットが開催されました。

サミットの開催は、地元洞爺湖地域のみならず、多くの方々に環境問題に対する関心の高まりをもたらし、また、洞爺湖地域に注目が集まつたことで、国内外からの来訪者の増加など、地域の観光活性化にも結びついています。

環境省北海道地方環境事務所では、このような状況をさらに後押ししていくことを目的に、サミット開催地に相応しい洞爺湖地域の環境保全の視点を発信するとともに、これらを広く体験的に学ぶことが可能となるプログラムを提案して、その普及啓発を目指したいと考えています。

本報告書では、洞爺湖地域における環境体験学習プログラムづくりの提案にあたり、

- ① サミット開催を契機とした洞爺湖地域の広報を目的とした国内外メディア等の参加による環境学習モデルプログラムの内容とその実施結果の分析。
- ② 上記①を踏まえ検討した洞爺湖地域4市町における具体的な環境学習プログラムづくりの提案内容。
- ③ 上記①、②を含む、環境体験学習プログラムづくりの具体的全検討過程。

で構成されています。

4月には「エコツーリズム推進法」が施行されました。その基本理念にあるとおり、様々な地域の主体による創意工夫のもと、このようなプログラムが企画・運営され、地域の環境保全と活性化に役立てられることを期待しております。



■もくじ

国内外メディア向けモデルプログラムの実施	2
洞爺湖地域における環境体験学習プログラムづくりの提案	11
洞爺湖地域のゲートウェイプログラム	12
西山火口ガイドウォーク	14
自然と植物	16
壮瞥町の果樹園	18
楽しく美味しいプログラム	20
噴火湾の恵み	22
北黄金貝塚	24
いにしえの知恵	26
プログラム作成の流れ	28
業務の進め方	30



広がる 洞爺湖地域

国内外メディア向けモデルプログラムの実施

モデルプログラム レポート



国内外メディア向けモデルプログラムの実施について

洞爺湖サミットを契機に、マスメディアを通して洞爺湖地域の自然や文化の魅力をより広く伝えるために、国内外メディアを対象に洞爺湖地域における環境体験学習プログラムを4回実施した。

当プログラムを企画するために、まずは自然や文化などの地域資源と既存の体験観光プログラムの調査を行い、地域の現状や地域の思いを理解することに努めた。次に、参加対象となる国内外メディアのニーズを洗い出し、地域の思いをどのようにしたらわかりやすくメディアに伝えることができるか、その手法やプログラムの流れについて検討した。

モデルプログラムの評価に関しては、実施後のアンケートを通して洞爺湖地域の魅力を再確認とともに、地域の思いから生み出したコンセプトと海外メディアのニーズがどの程度マッチングされていたかを確認した。

また、参加者から直接頂いたアンケートの言葉をキーワードに分析を行い、洞爺湖で行なわれるプログラムに期待することを明確化した。これらのキーワードは、洞爺湖地域におけるプログラムづくりに必要な「参加者のニーズ」であり、今後のプログラムづくりに活用できる。

国内外メディア向けモデルプログラムの実施

6/17



このプログラムのポイント

■「導入」としての洞爺湖ビジターセンター、火山科学館

洞爺湖ビジターセンター内の床面の衛星写真を使って、洞爺湖地域を俯瞰して全体の行程や距離感をつかんだり、館内の展示を活用して野外の活動の注意を促すなど、当日の行程へのより深い興味や関心を呼び起こした。

また、火山科学館のシアターを利用し、100年の間に4回の火山活動を起こした歴史や、噴火のプロセスの理解を図った。なお映像は外国語にも対応している。

■歩く行程を楽しく演出し、火山と人との共生を学ぶ

噴火の被害をうけた会社が製造したお菓子の試食をしたり、噴火口に近い地面を実際に触って地熱を感じたり、蒸気の音を聞きながら、噴出孔の温度を測って感覚を数値化したり、火口を背に広がる温泉街を一望できる風景や過去の噴火による地形の変化・被害の跡を目につしながら歩いた。

このようにただ解説をうけるのではなく、参加者の五感に訴えかけながら、火山活動とそこに共存する街の暮らしとを身近に感じられる演出を行った。

西山火口から洞爺湖へ ～火山と共に存する街～

開催日時：平成20年6月17日（火）13:00～15:30 (15:40～オプションプログラム)
場所：洞爺湖町ビジターセンター、火山科学館、西山火口
金比羅火口、四十三山入り口
参加者：10名（シンガポール・タイ5、中国5）

13:00

洞爺湖ビジターセンター集合

あいさつ、自己紹介、館内の展示を使って今日の予定のアナウンス。館内展示と火山科学館の見学をし、洞爺湖の火山活動の歴史や住民との関わりについて知る。

13:30

西山火口

西山火口散策路（北口）より展望台へ向かい、南口まで歩く。展望台では地熱を肌で感じ、火山地帯であることを体感する。隆起のメカニズムを解説し、俯瞰した地形から火山の力強さを知る。隆起したことにより破壊された工場やアスファルトの道路、噴石に襲われた幼稚園などを目にし、その地域に住む人の暮らしと火山との関わりを感じる。

14:50

金比羅火口 災害遺構散策路

街の遺構を見ながら散策路を歩く。熱泥流という自然現象による破壊の痕を見ながら、火山と生活圏の接近した洞爺湖温泉街の現状を感じる。過去の教訓を活かした防災・減災の取り組みについても知る。

15:20

洞爺湖ビジターセンター

まとめ



15:40 オプションプログラム

四十三山入り口

約100年前に噴火した火口の存在を確認しながら、遊歩道を少し歩く。噴火した後の植生の回復を今まで見た場所と比較して時間の経緯を感じる。

■参加者からの感想

ビジターセンター火山科学館について

- 外国語の対応があって良かった。
- もっとゆっくり説明があると良い。
- 四川大地震を経験したばかりで、災害という意識で共感できた。

西山火口散策路について

- 子ども達の地理、地学のフィールドトリップに向いている。
- 破壊から再生のプロセスをはじめてみた。たった8年で植物がこんなに生えることに驚いた。

金比羅火口災害遺構散策路について

- どうしてこんな危険な所に住むのか、火山と地域住民との関係性について興味を持った。

四十三山について

- 山の高さやコースの距離に関する情報をもっと見つけやすくすると良い。

全体を通して

- 今回のコースを母国に紹介したい。
- 歩くことが多いので一般の観光や、雨や冬のときのコースも考えると良い。



このプログラムのポイント

■地熱利用の流れを追いかける行程

①ビジターセンターで火山の存在を知る、②源泉に触れ火山を感じ、③その恵みで出来たトマトを食べる、④地元農家の方の思いを聞くという行程で、自然の恵みを活用した農業を紹介した。

地熱利用をしているハウス団地でのトマト栽培を伝えるだけでなく、源泉に触れ、地元ガイドの解説を交えることで、地域全体を包括する大きな視点から農業を考えることをねらった。

■試食を組み込んだエコロジカルな観点

地熱ビニールハウスで獲れたトマトを試食した。農家の方にその栽培手法や、地熱利用による二酸化炭素の削減に関する話をもらつた。観光果樹園浜田園では、イチゴ狩りとブリザーブジャムの試食を行つた。ここでは、剪定した果樹の枝を町内の堆肥センターで堆肥にし、それを果樹園に還元するなどの循環型農業のモデルであることを紹介した。「食べること」を通して環境に負荷の少ない当地域の農業を伝える工夫をした。

壮瞥町のエコロジカルな農業

～自然と人と農業～

開催日時：平成20年6月18日（水）8:45～12:00

場所：洞爺湖ビジターセンター、地熱源泉、地熱ビニールハウス団地、観光果樹園浜田園、そうべつ情報館iなど

参加者：3名（台湾2、中国1）

08:45

洞爺湖ビジターセンター集合

あいさつ、自己紹介、車内にて今日の予定のアナウンス。
途中そうべつ情報館iにて壮瞥町役場の現地ガイドと合流。

09:10

地熱水の源泉を見学

壮瞥町で利用されている温泉の源泉ポンプを見学。
ハウス栽培だけでなく、学校や病院の暖房、温泉といった町内施設に利用されていることを知る。
源泉水の温度を測ったり、実際に触れ、その熱を体験した。

09:40

地熱ビニールハウス団地

地熱水を暖房として利用しているハウス栽培を見学。
トマトの試食や、実際に働く農家の方より話を伺つた。
地熱水利用による二酸化炭素の削減やトマト生産に関して知る。

10:30

観光果樹園

観光利用としての果樹園施設を見学。
イチゴと園内で作られたブリザーブジャムの試食と作業工程の見学をした。
剪定した果樹の枝の堆肥化による循環利用について知る。

12:00

そうべつ情報館i

まとめ解散



■参加者からの感想

地熱ビニールハウス団地について

- 温泉を農業や暖房に活用しているという話は、観光客を呼び込む直接的な材料としては難しいが、この地域の温泉資源の活用方法は興味深い。
- トマトのビニールハウスの暖房に温泉を使っているようだが、暖かい時期に行くと（温泉による暖房が止められているため）実感しづらい。
- トマトがおいしく、農家さんが親切に教えてくれることがよかったです。

観光果樹園について

- 台湾の果樹園は単品しか作っていないが、ここでは10種類もの果物を作っているので、多くの果樹を楽しめるのでよかった。
- 香りの良さやきれいなところも魅力であった。



6/25 火山と鹿 volcano, deer

洞爺湖から贈る 人と自然の明日へのメッセージ

7:30 札幌駅出発

あいさつ、自己紹介、
今日の予定のアナウンス。

10:00 洞爺湖ビジターセンター

洞爺湖ビジターセンター
1. 床の衛星写真で洞爺湖地域の全体像を知る。
2. 映像で100年間の火山のプロセスを知る。



11:00 西山火口ガイドウォーク

火山の噴火口を実際に見て地熱を感じ、火山の力強さを実感する。
破壊された工場や幼稚園、隆起した道路や埋まつた重機の前で噴火当時をイメージすることで、そこに暮らす人と火山の関わりについて考える。



12:00 金比羅火口災害遺構

熱泥流で破壊された公営住宅や公衆浴場の様子を見る。
流路溝を見学し、防災・減災の工夫について知る。フットパスの紹介を受ける。



12:10 四十三山入り口

噴火後100年たって再生した自然について考える。



12:30 昼食

洞爺湖畔で特製ランチ。
珍小島自由散策。



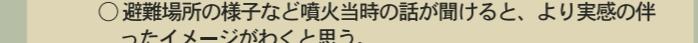
13:40 洞爺湖畔

洞爺湖と中島に関する解説。
(洞爺ガイドセンター小川氏)



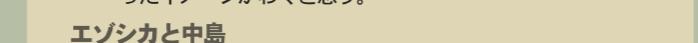
14:00 洞爺湖汽船

洞爺湖汽船乗船。



14:30 中島ガイドウォーク

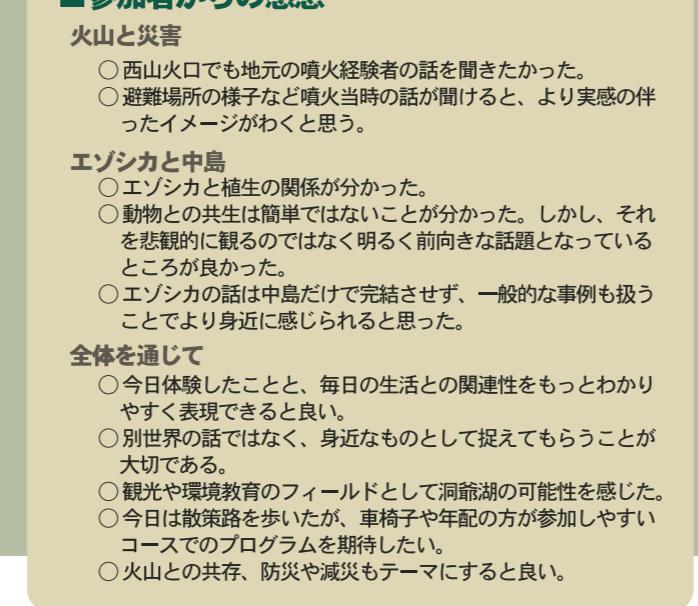
中島の自然について（エゾリス、エゾシカウォッチング）。
エゾシカの暮らしと隔離された島に与える影響について。



16:00 洞爺湖畔

まとめ

※16:30バス出発。
19:00札幌にて解散



このプログラムのポイント

- 火山の歴史と噴火のプロセスをわかりやすく表現する

火山の歴史や噴火のプロセスに関する理解を深めるために、①ビデオで過去100年の噴火の歴史や噴火を知る、②現場で火山を目の当たりにしその威力を実感する、③温度計や模型などを活用し火山の詳細を別の角度から理解する、④火山と人との共生について考えるという4つのステップを基本にプログラムを作成した。

■驚きを演出して楽しく学ぶ

今回は野生のエゾシカとエゾリスに出会うことができた。参加者に野生生物との出逢いを約束するのは難しいが、地元ガイドは日々のフィールドワークによって自然の状況を把握しているので、動物に出会う確率を高めるガイディングができる。また、動物に出会えた感動を効果的に学びに結びつけるために、「事前の意識付け」や「まとめ」を丁寧に行なった。

6/26 火山と農業 volcano and agriculture

火山地域の自然と農業の関わり ～自然の営みと人の営み～

このプログラムのポイント

- 火山地域と地元の農業の関わりを知る

まず火山を知り、火山に関係する地元の農業を学ぶというプログラムフローとした。ビジャーセンターで映像を見た後に、実際に災害のあった現場を訪れたり、温度計で地熱を計るなど、地面にふれることで地熱を感じられる仕掛けを用意したりして、後半の地域特有の地熱利用の農業へ理解を深められるようにした。

■地元の農家から説明を受ける

農園、果樹園では、生産者が直接来訪者に話をした。同行する役場職員やガイドは、生産者と来訪者の間を取り持つ役割を担った（解説に対する質問や促進役、時間管理）。農村風景をただ見ながら通過するのではなく、その地の風土を感じ、自然と農業の関係、また、農業が社会に置かれている現実を知るために生産者が自分の声で語るので聞くと効果がある。

開催日時：平成20年6月26日（木）11:30～17:00

場所：洞爺湖ビジャーセンター、西山火口、金毘羅火口遺構
トマト農園、そばべつ情報館 i（アイ）など

参加者：24名（ロシア）



11:30 洞爺湖ビジャーセンター集合

あいさつ、自己紹介、今日の予定。
床の衛星写真で洞爺湖地域の全体像を知る。
映像で100年間の火山のプロセスを知る。

12:15 西山火口ガイドウォーク

火山の噴火口を実際に見て地熱を感じ、火山の力強さを実感する。
破壊された工場や幼稚園、隆起した道路や埋まつた重機の前で噴火当時をイメージすることで、そこに暮らす人と火山の関わりについて考える。南側駐車所まで歩き、バスにてビジャーセンター側へ戻る。

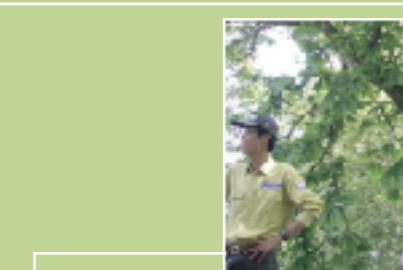


13:45 金比羅火口災害遺構

熱泥流で破壊された公営住宅や公衆浴場の様子を見る。
流路溝を見学し、防災・減災の工夫について知る。フットパスの紹介を受ける。

14:30 トマト農園

地熱を利用したトマト農園を訪問し、その仕組みの解説を地元の農家、役場職員より受ける。
火山地域の特性を生かした産業の「現在の取り組み」を知る。実際に試食し、その大地の恵み（熱）によるおいしさを体験する。



15:30 果樹園

火山灰の降った、川沿いの水はけの良い地質で見事に育っている果樹園を、農園主の案内を受けながら散策する。

16:30 壮瞥情報館 i（アイ）

ふりかえり。
壮瞥町の環境・観光・農業の取り組みについて役場職員より説明を受ける。

17:00 まとめ

まとめ

■参加者からの感想

西山火口ガイドウォークについて

○この地域において火山活動がつづいていることが印象に残った。
○活火山の側に住み、火山のメリットを活かし、噴火についてある程度事前予測ができるので地域の人は良い山であると思っていることが印象深かった。

火山と農業の関係について

○計器を使って人が有珠山の噴火を予測できることが印象深かった。
○それによって有珠山の麓に住み、農業に携わることができる。
○ビニールハウスと部屋の暖房のため地熱を使うことが興味深く、とても重要。

全体を通じて

○観光における新しい方式で楽しい驚きがあった。
○地元の人々の親切さや、農業への取り組み方を知り、とても印象に残った。
○ビジャーセンターがとても面白く、その整備と情報提供の仕方は興味深い。

フィードバックと分析



■参加者からのアンケート結果

プログラム終了後に参加者からアンケートや振り返りなどでフィードバックを受けた。これらのフィードバックは参加者のニーズを分析するために用いられた。下記は参加者からの直接の感想である。

■要素のまとめとキーワード化

■フィードバックと分析

前項までのモデルプログラムで実施したアンケートを用いて、洞爺湖地域でのプログラム作りに重要な要素を整理した。また、アンケートで得られた様々な意見をプログラム実施者の観点から中項目にまとめ、参加者が求めている事柄をキーワード化した。

また抽出されたキーワードをプログラム作成の際の留意点として捉え、プログラム企画者の視点から留意点を細分化した。この分析で得られた成果を念頭に置きながら、洞爺湖地域のプログラム提案集を作成した。

■キーワードの細分化

プログラム企画・作成者の視点から、キーワードに含まれる要素を分解した。
この細分化は、ねらいやコンセプトをニーズに添った形でプログラム化する際に活用された。

